

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0770302321		
法人名	有限会社 花束		
事業所名	グループホームひまわり A棟		
所在地	福島県郡山市安積4-334-1		
自己評価作成日	平成21年6月25日	評価結果市町村受理日	平成21年10月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に明るい雰囲気笑顔があふれ、一人ひとりの利用者様に安心して生活して頂けるよう、スタッフ一同真心を込めて、日々ケアに取り組んでいます</li> <li>・外出の機会を多く持ち、喜ばれています</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年8月7日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所は敷地が広く、緊急時に避難場所としての十分なスペースが確保されている。運営者は食事を1日の活動の一つと捉え、利用者が調理場に入り、職員と一緒に調理ができるよう調理場を広くするなど配慮がなされている。週間の献立はあるが、その日の利用者の希望や天候、近所からの食材の提供などにより、献立を臨機応変に変更したり、事業所の畑からの朝採り野菜を調理するなど、食を通じての楽しみを全員で味わっている。利用者が生き生きとした表情でおしゃべりしながら食事を楽しんでいる。また、職員はそれぞれが資格取得等の目的を持ち、日々研鑽している。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	BS法を用い、職員全員で意見や思いを盛り込み分かりやすい言葉で理念を作成したスタッフ会議にて再確認し実践につなげている	「優しく思いやりのある対応。本人の希望を叶える支援。地域の人たちとの密な交流。」を理念として全職員で共有し、地域密着型サービスの意義、役割を踏まえて実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し清掃活動、夏祭りや敬老会等、地域の行事に参加している 又、季節の野菜や花の差し入れを頂いたりしている	町内会の行事や地域住民との交流の場に積極的に参加している。日常的な買い物、散歩時の挨拶は会話につながり、地域住民の一員として溶け込んでいる。	事業所の情報を積極的に発信することにより、さらに近隣住民との交流が密になると思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域貢献までには至っていないので、今後他の機関と連携を図ったり、全職員で自分たちにできる事は何かを話し合いながら取り組んでいきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的開催し取り組み内容や改善課題を話し合い、率直な意見や地域の情報を頂いている	運営推進会議は定期的開催され(二ヶ月に一度)、事業所の現状報告のほかにその他協議事項も多岐にわたっている。委員からは意見、提言がなされている。	運営推進会議で出された意見や提言等について、その経過や検討結果についても報告し、記録される事が改善につながると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と連携を取り合い行事でのボランティアや交流会をするための保育園を紹介して頂いたり、相談している	市担当者とは常に直面している問題の対応についても相談できる体制となっている。お互いに、情報が共有され協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる 今の所、家族からの要望はないが、今後あった場合は十分な説明と話し合いを持ち、納得を得られるようにしたい	全職員が身体拘束によって利用者にも与える身体的、精神的苦痛を理解しており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解と遵守をスタッフ会議等で話し合い徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が制度をよく理解しているとは言えず支援体制が充分とは言えない 今後、勉強会等の機会を設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、料金改定の際は、十分な説明の時間を取り、不明な点を随時確認しながら進めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも話して頂ける環境作りをしている 日頃の会話や様子から思いを汲み取り、サービスに反映できるよう努めている	運営推進会議や面会時に家族からの意見、要望等を把握し、出された意見等は職員会議等で検討し、サービスの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて意見・要望を聞き、反映させている 又、日常の中でも意見・要望を言い易いよう心がけている	職員からの意見や提言はいつでも何でも言える体制になっており、出された意見等は代表者や管理者がしっかり受け止め、全職員で話し合い、事業運営やサービス向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や研修会への参加等、向上心を持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修会に参加している 又、スタッフ会議にて研修報告を行い、内容の共有化を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で意見交換をしたり合同会議を設け、相互訪問や勉強会をし、お互いのサービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心できるよう気持ちを受け止めたり、本人の声に耳を傾けたりしながら信頼関係を築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って気持ちを受け止めたり、不安な事・要望等に耳を傾けながら信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす生活の中で気持ちを受容し、共感しながら支え合う関係作りに努めている 又、レク活動等では一緒に遊び、一緒に笑い共に楽しんでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にてよく話を聞き、家族の思いを受け止められるよう努めている 又、行事等、家族も一緒に参加して頂き、楽しめる機会を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族との会話から聞いた馴染みのスーパーや和菓子屋へ一緒に出かけたりしている 馴染みの美容室へ通っている方もいる	利用者のこれまでの人間関係等を把握して、なじみの美容室やお店を利用し、その関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	子供の頃、仲の良かった二人が入居により再会したりという偶然のつながりがあり、その関係を大切にしながら支援して 又、利用者同士の関係を把握し、よい関係が築けるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に困った事等あれば、いつでも連絡頂けるよう話をしている 又、移り住む先の関係者に対して情報提供を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉や様子から希望や意向の把握に努め職員間で共有しながら、できる限り本人の希望に添えるようにしている	センター方式を利用しており、全職員で情報交換を密にして利用者の生活歴や思いを把握している。把握が困難な利用者については、家族からの聞き取りや利用者の表情や行動から意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や経過を聞き、職員で情報を共有しながら信頼関係が作れるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合わせた支援を提供している ケース記録・連絡票にて日々の変化等、常に把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意見を大切に、又、日頃の関わりの中からの職員の意見やアイデアを反映させながら作成している	介護計画書は、利用者や家族と医療機関から収集した情報をもとに全職員で協議し、利用者の現状に即した介護計画となっている。介護計画書はその都度家族へ分かりやすく説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入、業務に入る際に確認する事で情報の共有化実践に努めている 又、計画の見直しの際、振り返りを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせて、一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員会議の際、地区の消防署の方に来て頂き、現場からの様々な質問に答えて頂いた 又、日常的に町のスーパーへ利用者と一緒買い物へ行っているため、顔馴染みになり声をかけて頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合い希望の医療機関で受診できるよう支援している 又、往診体制もできている	利用者、家族の希望に応じて今までの医療機関の受診の支援をしている。受診は原則として家族対応となっているが、状況に応じて職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師来園時に日々の健康状態について報告し、一人ひとり健康チェックをして頂きながら、早い段階で異変に気づき、主治医と連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と情報交換を行い、常に状況を把握して受入れできる態勢を整えている 入院中は面会へ行ったり主治医との話し合いに参加している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に対して家族や医師と話し合い方針を共有化している	事業所は重度化や終末期に向けた方針を定め、利用者家族へ説明し、重度化や終末期に対する対応について同意を得ている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針が作成されたのに伴い、全職員間で方針の共有をされることが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な行動が取れるようマニュアルがあり、勉強会を開催している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し万が一に備えている 地域の民生委員との協力体制もできている	毎月、全体会議において避難訓練のシュミレーション等を確認し、避難時の優先順位表を作成している。年に2回の避難訓練を実施している。食料品等は備蓄されている。	防災訓練には消防署の立会いを依頼し、専門的立場からの意見等も組み入れることが望ましい。また、運営推進委員等の協力を得て、災害時に地域の協力を得られるような体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に、誇りやプライバシーに配慮した対応をしている	家族の面会簿や利用者の介護計画など各種記録は、個人情報の取り扱いに注意しながら、適正に管理されている。職員の利用者への言葉かけなどもプライバシーを損ねないように配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声かけを行い利用者を選択して頂けるような問いかけ、自己決定を大切にできるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々本人の思いをしっかり受け止め、柔軟に対応しながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行き、パーマやカラーをされている方がいる 又、職員の一時的なものではなく、その人らしいおしゃれができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	メニューを決めて頂いたり一人ひとりのできる力を活かしながら調理や片づけを行っている 又、時々外食へ行き楽しみながら食事をしている	敷地内の畑でとれた野菜を使った食事は、利用者の楽しみとなっている。基本的な献立はあるが、利用者の希望や差し入れ、天候等によりみんなで話し合い臨機応変にメニューを変更している。職員も一緒に食卓を囲み、さりげない支援をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事・水分の摂取量を確認記録している メニュー表を確認しバランスよく栄養が摂れるよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力量に応じて、準備、声かけ、介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンに合わせ支援している ほぼ失禁状態だった方が、トイレ誘導等により尿意が戻りほとんど失禁がなくなった例がある	全職員が排泄の自立支援に努めており、身体機能に応じたさりげない誘導を心がけている。オムツ使用枚数を少なくし、リハパンに変更するなど改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝食にヨーグルトを出したりオリゴ糖を活用している 又、水分摂取や軽体操等の適度な運動を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず本人の希望に合わせて入浴して頂いている ゆず湯等、季節感も取り入れている	基本的にはいつでも入浴できる体制にあり、利用者の希望やタイミングに合わせて柔軟に対応している。また、利用者の羞恥心・恐怖心が払拭できる様、同性職員の介護を行い、入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の希望に合わせて休息をとって頂いている 夜間、寝付けない方には添い寝をしたり眠くなるまで一緒にお話ししたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の度に医師からの指示、処方内容を記録して確認し合い、情報の共有化を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる力に合わせて調理や畑、花の手入れ等のお手伝いをお願いし、その都度感謝の言葉をかけている 又、意欲を引き出すような声かけを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒に食材や自分の好きな物を買に行ったりしている 又、本人の希望にてデパートへ行き、その後昔行っていたラーメン屋で食事をして来た等の例がある	外出はその人らしく暮らせる支援としてとらえ、散歩や利用者と一緒に食材を購入に出掛けている。また、利用者の希望により昔からの大判焼き屋やデパートの物産展等に出かけるなどして外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や受診時に支払いを自分で行ったり少額を所持して頂いたり、本人の希望や力量に応じて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの力量に応じて手紙のやり取りができるよう支援している 電話はいつでも利用できるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に花を飾ったり、利用者と一緒に制作した物を掲示している 又、音や光には常に配慮している	共有空間には天窓があり、自然な光が差し込んでいる。季節によっては天井にすだれを張り、光やわらげる工夫がされている。共有空間は広く浴室、トイレ等もゆったりと住みやすい構造となっている。フロアには家具等の配置をし、利用者の作品等が飾ってあり、親しみと暖かみを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの他、畳、ソファがあり、思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂き、居心地よく、ゆったりと過ごせるような工夫をしている	居室は広く、洗面台、エアコン、、クローゼット等が設置され、整理しやすく工夫されている。利用者はそれぞれの好みの調度品(タンス、寝具、TV)等を持ち込み、安心して心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には分かりやすいよう目印を付け、混乱なく場所の把握ができるようにしている		

### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム ひまわり

記入担当者名 中山 真由美

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。